

■「立ち上がれ! ねん土」の導入例

実際に田中先生の授業を取材したときの導入をご紹介します(T:田中先生 C:児童)。

T (粘土を袋から出しながら)  
この粘土は「テラコッタ」っていう、焼き物をする粘土を使います。このテラコッタは、今はこんな色だけど、焼くとオレンジっぽい色になるのね。これ一つで1kgあるの。先生は軽そうに持っているけど、実は重いんです。

★興味・関心をひく

え、1kg! C1  
重いんだ。 C2

T それでね.....

(児童がざわついている)

T お話するよ。

(静かになる)

T じゃあ、始めるよ。  
きょうは、みんなに一袋ずつ渡すんだけど、あと半袋分おかわりも用意してるの。それでね、きょうはテラコッタでつくりたいものを自由につくってことじゃなくて、先生から「お題」を出したいの。きょうの題材は「立ち上がれ! ねん土」って言って、粘土を立ち上がらせたいの。

★題材の核となる「勝負どころ」を伝える。

T でも粘土って、生きてるものじゃないから、「はい、立って」っていても自分では立ち上がらないでしょ。だから、みんなが立たせなきゃならないわけじゃない? どんなふうにしたせられるのかな。最初にちょっと先生とみんなで作ってみてから、つくっていきこうと思ってるのね。

★発端と道筋を与える



T これだと、寝ている感じがしない? でも、こうすると.....



T 向きを変えただけなんだけど、立ってる感じがしない?

★発端と道筋を与える

立ってる! C1  
たしかに、するする。 C2

T あと、どんな立たせ方があるかな、ということで、ちょっとまだみんながやったことがないこと、先生やってみるね。

T (粘土を半分にちぎって、丸める) これで 500gぐらいね。(たたら棒を出して) この同じ厚みの板を粘土の両側に置いて、それでね、この丸い棒に体重をかけて.....先生、いま立ってやってるよね。

★用具の使い方などのポイント



(ゆっくりおおげさに演示)

T こうやってゴロゴロゴロゴロってやると粘土が伸びてくる。おうちでピザとかパン、型押しクッキーつくるみたいね。で、このままいくと、ずーっと長くなっちゃうでしょ？ 粘土板から出ちゃうから、途中でこうやって(たたら棒の)向きを変えてあげるといいの。

★子どもたちの実体験と結び付くエピソード

ああ……

Cs

T で、こうすると……



T いま、丸い形から始めて、こんな形になっちゃったんだよね。

うわー。

C1

宇宙人みたい。

C2

T で、これを使ってもいいと思うわけ。これ、いま寝ているよね。立ち上げるにはどうしたらいいの？

★「工夫」を具体的な言葉や視点に置き換える問いかけ  
(児童口々につぶやく)

太くする。

C1

土台をつくる。

C2

T 土台をつくる？

丸くする。

C3

T 丸くする？ どう丸くする？

その端と端をくっつける感じ……？

C3

T こう？(横に丸くする) それでどうする？

横に切るの。

C3

T 粘土をきれいに切りたいときは、これ(たたら棒)を使って。みんな見える？ それで竹串で。シャーっと。

★用具の使い方などのポイント



(切った形を見せる)

すごーい。

Cs

気持ちいい。

T それで切るだけ？

切って平らになったところを立てる。

C3

T なんとなく分かった。



T 例えばいま、こういう案が出たんだけど、これ立ってるよね？

あ、そうか。

Cs

T こうやって粘土をゴロゴロすると板になるでしょ。板になったのを切ったり、組み合わせたりして、立たせることができるよね。あとはどんな立て方があるんだろう？

(児童口々に発言)

足を机みたいに四本立てて上に  
タワーみたいにしていく。

C1

T じゃあ、試しにやってみるね。今の言葉で、きつこうかなって思ったの。まず、こうやって紐をつくと……

動物みたいにつくる。

C2

T ちょっと待って、ちょっと待ってね。今、立て方だけ先にお話しさせてくれるかな？

★核となるところは集中させる。

T 簡単にやるよ。きつこういうことかと思ったのでやってみるよ。足が四つあって(円柱を4本立てて見せる)。こういうことかな？

はい。

C1

T (その上に机のように板状の粘土を置く) ちょっと立ったよね。

おーっ!

Cs

(児童ざわつく)

T シャベってもいい？ (集中するまで待って) で、こうやってると、さっきの  
で、立て方が違うよね。

★核となるところは集中させる。

(児童うなづく)

T 両方の立たせ方を組み合わせたっていいんだよね。  
一つのやり方でずーっといかなきゃいけないってことじゃないよね。立たせ方を組み合わせてもいいよね。

★「工夫」を具体的な言葉や視点  
に置き換える問いかけ

(児童うなづく)

T 他のやり方として、さっき紐状の粘土をまっすぐ立てたけど、これもいろんな使い方あるよね。曲げてもいいよね、どう曲げる？

(ジェスチャーでいろいろ示す)

T じゃあ、アーチ状。(それを、さっきの机のような粘土に載せる)。先生のつけたけど、別にのっけなくてもいいんだよ。このままで立っててもいいわけだよ。

★「工夫」を具体的な言葉や視点  
に置き換える問いかけ

T で、話を戻すね。立ち上がるというだけで、いまこれだけいろいろあったよね。

T それでね、さっき、タワーとか動物っていうのが聞こえたけど、今回はそういうものをつくる気は全くないの。最初から何かをつくろうとか、それではだめ。

★題材の核

T 粘土がどんなふう立ってるのかって、みんながいろいろ考えてくれることが勝負どころなの。それと、図工だから、並べたり組み合わせたりしたときの粘土の形のすてきさ、面白さっていうのも要求されているの。分かるかな？

★題材の核

T どういう立たせ方ができるかっていうことと、つくった形がいろんな方向から見えてすてきであること。そこを忘れないでね。何かを最初からつくろうっていうんじゃなくてね。

★題材の核 繰り返し

(児童うなずく)

T 最初からタワーつくろうってなったら、みんな縦に高くなっちゃうじゃん。そうじゃなくて、横に広がったっていいじゃない？

★発端と道筋を与える

えっ!?(驚きの声)

Cs

T 立たせるっていうことなら、横に広げていくパターンだってあるわけですよ。どうかな？

★発端と道筋を与える

(児童うなずく)

T じゃあ、ちょっと頭の中で、「どういう作戦で行こうかな」っていうのを考えてみて。

(考えている間に説明の準備)

T もう一つ追加の話。技術の話があります。さっきやった、竹串で粘土を切るのも技術だよ。まっすぐ切るにはこれ(たたら棒)使ったらいんじゃないって話したよね？でもフリーハンドだって切れる。別に三角形に切ったっていい(演示)。斜めに切ってもいい(演示)。

★用具の使い方などのポイント

T もう一つの技術として、例えば三角形を立てたいとき、油粘土だったら乗っけてくっつけて終わっちゃうじゃない。でも、焼き物のときは、これだけだとはがれちゃうの。だから……



(どべを三角形に塗り始める)

のりみたいに？

CI

T そう、のりみたいに。

T これ、「どべ」って言って、テラコッタの粘土を水につけて、先生が練ったものなの。どろみただよね。こうして、つぶれない程度に押しあげるといい。

★用具の使い方などのポイント



(横にしてみ、落っこちないのをみんなに見せる)

おおー!!

Cs

T どべがはみ出てちょっと汚くなっちゃうので、いやだったらこうやってみて（はみ出たどべを指でこすって目立たなくする）。これ自分でやってね。こだわりだから、自分の。ここきれいにしたいと思ったら、そうしてね。分かったかな？

（ひと呼吸）

★「工夫」を具体的な言葉や視点に置き換える問いかけ

T それで、もう一つの技術。

いま田中先生、体温が 36 度くらいなの。ずーっとこうやって触っているとね、だんだん粘土が乾いてきちゃうの、体温で。いまエアコン使ってるでしょ。体温だけじゃなくて、エアコンも粘土の水分を全部とっちゃうの。

T それで、みんなに古タオル持ってきてって言ったじゃない？ このあと、その古タオルを水道で濡らして絞ってください。そして濡れたタオルを、使わない粘土にかけておいてね。粘土の管理は自分ですの。これも大事なところ。

★用具の使い方などのポイント

T いま先生は粘土を板にただけなんだけど、指で押せば柔らかくなるし、穴も開けられるじゃん。粘土っていろんな形になる。ただ、濡れタオルを粘土にかけておくことを忘れちゃうと、そういうのができなくなるの、パサパサになっちゃうから。だから、形を変えたいときにちゃんと変えられるように、管理してくれるかな？

（ひと呼吸）

★大事なポイントは繰り返す

T きょうやること、分かったかな？

（児童の様子を見て）

★大枠を理解しているか確認

T 活動時間はきょうと、もう1回の図工で作品として完成させて、乾かした後で先生が焼きます。いい？

（児童の様子を見て）

★活動の見通しを伝える

T じゃあ、始めよう！